

No. 233

H18年11月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

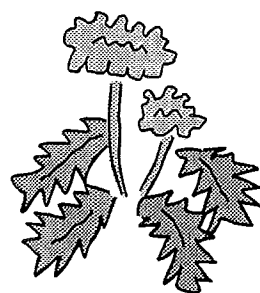
大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

096-293-8100



「食事」

施設長 松田 健

一口で大きなスプーン山盛り2杯分ぐらいを食べようとする方がいます。多すぎ

るので「ちよつとよ」といっても理解しにくいのでどのようにならなければいけません。適切な量はどれくらいであるか教える必要があるようです。逆にちびちび食べる人がいます。食べたくないのかもしれません。適切な量を学習していかないのかもしれません。量の過不足を支援することは、根気がいらぬことも事実です。

詰め込み食べをする人は要注意です。喉に詰まらせてしまうからです。どうすれば丸呑みせず、ゆっくり噛んで食べるようになるか考えます。早く食べてしまい、満足を得られないどころかかえって情緒不安定になる方は少なくありません。時間がかか

る人への支援も必要です。固まってしまっている人には付き添って次の動作を促します。

一品食べをする人がいます。まずおかずを全部食べ、次に吸い物というように順番を自分で決めていきます。おなかの中に入れて一緒に普通考えません。手順書で決める人もいますが、基本的には付き添いながら改善していきます。また、吸い物の中におかずを入れたりする人もいます。目が離せません。

誰でも嫌いなものがあるのも無理には食べさせることとはしませんが、極端な偏食に関しては、健康を損なう危険性がある場合、支援が必要であると考えます。本人の同意を得たうえでの家族、医療機関との連携も必須です。拒食症や過食症についても同様です。徐々に改善できるようプログラムを組み、付き添

います。

食事中の大きな声の騒がしさ、落ち着きのない多動の行動への配慮が必要です。食事時間をずらす、場所、位置を考慮する、付き添い者を選ぶ、付き添い者数を増員するなど事例に応じて対処します。また、前兆行動を見逃さず、早めの対応を心掛けていきます。

他人のものをとって食べる方もいます。自分のものを他人の器に入れる方もいます。落ちたものを口にしようとする人もいます。手で食べようとする方もいます。(これはほんの一例です。)すべて見守りと支援が必要です。

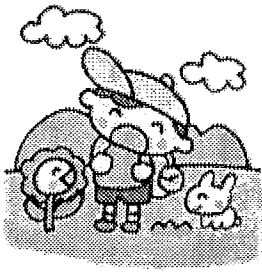
食べこぼし、食器や箸の扱い、その他ひとを不快にさせる行為への支援が必要です。

三気の里では、朝食時支援員ひとりに対し、利用者十名、昼食時五人、夕食時八名ぐらの配置となります。しかし、お

盆投げ等の不適切な行動を抱えている方、じゆうせきのてんかん発作を抱えている方など完全に一体一で付き添っている人が数名おられるので、支援員が一人で十五名近くを見守る状況が朝食と夕食時に発生します。事故が起こると、責任を追究されることになるのでしようが、一人で十五名を見守れる力量を持った支援員がどれだけいるでしょうか。神の域に達していません。

さらには、刻み食、低カロリー食、減塩食など各自の状態に応じた配慮や本人の嗜好を踏まえた上での栄養管理が必要とされます。

今回、「自閉症者施設 サービス評価基準」の食事について書いてある部分を参考に記させていただきました。食事場面に關してだけでも自閉症児者の施設は長年取り組んできた結果として培った多くの実績あります。その蓄積は、主に過配職員を自己努力により配置してきたことと、自閉症への研修により専門性を高めてきたことによりもたらされてきました。見守り・介護といった言葉のイメージから想起される人員配置では決してなし得ないことばかりです。

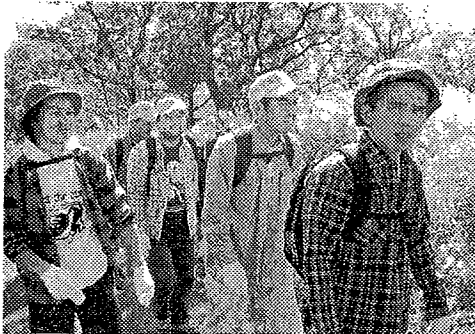


班ニュース

『Aグループ：天気は晴天！』

毎年恒例の登山！今年も昨年同様、大分県にあるみそこぶし山へ行ってきました。Aグループでは、健脚揃いで、一番距離が長く勾配があるコースを散策してきました。始めは、利用者の方・スタッフと意気揚揚と軽快に足を進め、雄大な自然を感じながら、笑顔を見せる方もいらっしゃいました。しかし、後半になるにつれてペースもドンドン落ち、服も汗でビッショリ！最後の上り坂は勾配が急で、石もゴロゴロと行く手を拒むかのように散乱しており、滑ったり転びそうになったりと、みなさん悪戦苦闘されていました。しかし、手を取り合い、山に挑んでいく姿は、とても格好良く、勇ましく見えました。きつい上り坂の後には、頂上の絶景と「やりきったぞ！」と清々しい爽快感が待っていました。これこそ登山の醍醐味だなと改めて感じさせられました。きつい事・苦しい事の後には、必ずそれ以上に良い事が返ってくると利用者・スタッフみんなで感じる事が出来た登山でした。

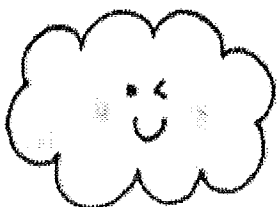
宮下



『Bグループ：一致団結』

木々が色づき始めた秋。天気は晴天。絶好の登山日和にミソコブシ山に登りました。Bグループは利用者19人、スタッフ8人の計27人のグループで1列に並び、前の人を追い越さない、押さない、よいペースでまとまって歩く事を目標にすばらしい景色が望める場所を目指しました！「がんばるぞー！」を合言葉に片道1時間20分程で登りました。見渡す限り一面に広がるススキやアザリなど秋の草花に時折目を向け、時には皆で励まし合いながら一人のリタイヤもなく、怪我することなく登り終えることが出来ました。そして、一番評価できたのは日頃から集団で移動する練習を行っている成果が発揮され、列を乱す人が殆どいなかったことでした。山から見える景色がとてもすばらしく、登り切った充実感でみんなとても満足した表情でした。27名が一体となれた山登りでした。

平田



『Cグループ：日頃の成果』

「服装よし！靴よし！リュックよし！弁当よし！薬よし！」忘れ物がないようにみんなで掛け声をかけて、マイクロバスに乗り込んでいる。行きはみんな楽しそうにお喋りをしていたが、九重のみそこぶし山に近づくにつれ、みんなの口が重くなってきた。スタッフが「楽しみだねー！気持ち良さそう！頑張ろうね！」の言葉がけと共にみんなの表情も少しずつ和らいできた。登山場所は一昨年（昨年は雨で登山が中止）と同じ場所の為、みんな何となく想像がついたと思う。列を乱すことなく前の人について歩き、足場が悪いところはスタッフの声かけで用心して登っている。日頃の取り組みが発揮できているなあ、と実感した。普段から集団行動を意識して移動したり、散歩を行っている為、人に合わせて行動し、声かけに対してもすぐに反応でき、危険回避も出来ていると感じた。登山を通して、利用者の行動や意識などが新たに発見できた為、成長した部分をもっと活かし、足りないものを課題として、共に達成できるように支援していきたい。お疲れ様でした。

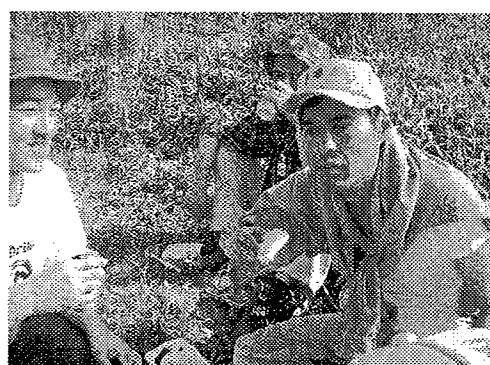
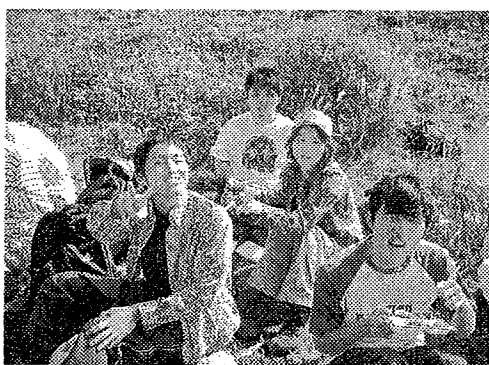
両角

『Dグループ：秋を感じた一日』



Dグループは、大分県九重町にある「長者原」へ行きました。コースは、登山というよりもむしろ散策に近いもので、約50分の間ゆっくりと歩いています。途中、若干せまい板張りの部分を通ったのですが、すれ違う登山客にも利用者の方から挨拶をかけることができ、清々しい一場面でした。普段散歩をしながらの方は、物足りなさを感じたかも知れませんが、表情には見せず、ペースを乱さず集団でよく歩く事ができました。絶好の気候に恵まれ、ススキが一面に広がり、またドングリが落ちていたり、秋を感じながらの登山となりました。又、普段あまり関わりが少なく、通所やグループホームの利用者、又厨房スタッフも一緒に、車内や昼食時には皆で話しが弾み、笑いが絶えず、利用者・スタッフ含め親睦を深められ、意義のある登山になったと思えます。

緒方



『Eグループ：宝探し』

Eグループは、立田山自然公園のお祭り広場へ行きました。広場にシートを敷き、そこから遊歩道を少し散策し、その帰りに宝探しをしたのですが、予想以上に皆さんは乗り気で宝物を見つけました。宝物は、カラフルなカプセル入りで皆さん、1つは見つけ、なかには5つ見つけた人も。そんななか、まだ1つも見つけていなかったMさんに「ここにあるよ」と、指さし教えてくれたUさん。皆が探し終えた後、気付くとUさんは1つカプセルを持っていたはずなのに無い。でもカプセルの数は準備していた数と合っている。スタッフの頭の中に？が飛んでいた時Uさんが「M君が持ってなかったからあげた。」と言うのです。Uさんは自分の見つけたカプセルをさりげなく木の根元に置き、Mさんが見つけられるように声をかけてくれたのでした。そのUさんのさりげない優しさに、みんな笑顔になった一日でした。

菊池

【療育雑記】

「分かりやすい支援に向けて」
「視覚的情報を活かして」

支援員 岩田幸児

最近、買い物に行くとお店の商品の陳列してある物をコーナー毎に、文字や絵で提示してあるものをよく目にするようになりました。その他にも周りを見てみると、トイレやエレベーター等のマークや看板があり、買い物にきた人が目で見てスムーズに買い物ができるように色々工夫され、実際に買い物がいやしくなっていると思います。このように私たちは普段何気なく、このような視覚的な情報を取り入れ、状況を判断しながら生活しています。

三気の里で生活されている方たちの多くは、自閉症という障害を持っておられ、その特徴として、音声での情報に比べ、視覚的な情報の方が理解しやすい・伝わりやすい方が多いと言われています。このような視覚的情報は、三気の里の生活の場面でも沢山目にする事が出来ません。例えば、作業棟の中では、

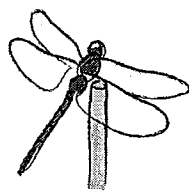
作業用具を置く棚には分別しやすいように用具の名前が書いてあったり、作業の内容や目標・約束事を書いたボードがあります。また、居室棟の中でも、洗面所には歯磨きや手洗いの手順を表した図やその日の日課（午前・午後の活動や昼食のメニュー・入浴の有無など）を示したボード等、利用者の方たちが見て分かりやすいように絵や文字を使って提示してあります。実際に利用者の方たちが、ボードを見ながら日課を確認されている場面をよく目にします。この他にも、自分の気持ちをコントロールする為に、約束事を書いた紙を大切に持っている方や、一日の日課として日記帳をつけている方等、沢山の方が視覚的な情報を活かしながら生活されています。

具体的な例をあげると、視覚的な情報をカードにして、毎日の歯磨きに利用されている方がいらっしやいます。通所部のTさんの歯磨きカードには、磨くポイントに色をつけ、分かりや

くしてあります。彼はそのカードを見ながら、1枚ずつカードを捲り、色の付いているポイントをしつかり10回ずつ磨いていきます。一通り磨いた後には、『仕上げをしてください』と書いてあるカードを見ながら、スタッフに「仕上げをしてください。」と伝えます。その後は、『歯ブラシを洗う』↓『うがい』を2回する↓『片付ける』といった手順でカードを見ながら歯磨きを進めていきます。カードの情報を利用しながら、上手く歯磨きを終えた彼は満足気な表情を浮かべ、私達も「上手に出来たね！」と賛辞の声をかけます。こんな彼も、以前はカードを提示しても中々出来ず、同じところを磨き続けていたり、2・3回磨いてやめてしまったりと、カードを見続ける事が難しい方でした。そこで、スタッフと一緒に1枚1枚カードを見ながら、磨くポイントに歯ブラシを当て一緒に手を動かして磨いていく支援から始めました。始めはTさんも困惑した様子が見られ、スタッフの支援もぎ

こちなくお互いに試行錯誤といった感じでした。しかし、徐々に支援の仕方がスムーズになつてくると、歯磨きの動作も落ち着き、徐々にカードを意識しながら自分で磨けるようになってきました。彼との関わりの中で、視覚的な情報を上手に取り入れるための支援があつて、初めて視覚的な情報が、利用者の方たちの生活の中で生きてくる事を実感しています。きっと利用者の方たちは約束事を書いたカードや日記帳などの視覚的な情報の中に、スタッフとの信頼関係を感じておられるのだと思っています。

これからも利用者の方たちに分かりやすい視覚的な情報の提供と、その視覚的情報を上手に取り入れられるような支援を行いながら、利用者の方たちの持っている特徴を活かして充実した生活を送れるようになる事を目指していきたいと思えます。



【家族便り】

山崎 徳子

三気の里に入所して3年目。時々ライラして物にあたってしまふ事もありますが、少しずつ園の生活にも慣れてきました。入所前に義母の入院があり、宏も落ち着かない日々だったと思います。今は、月2回の帰宅を楽しみに頑張っています。帰宅すると、セキユリティーが気になっている様でパンフレットをもらって来たり、「盗難が心配」と言っては、自転車を4階の自宅まで抱え上げています。「台風の時、飛ばされると怪我をするので上げないように」と注意すると、一度は守ってくれたのですが、また2台上げてしまいました。次々と色んなことをやるので気を抜けません。これからもこだわりや問題行動は続くと思いますが、先生方が力になってくれるので前向きに頑張りたいと思います。



【福祉祭り】

10月15日(日)に大津町オー

クス広場にて福祉まつりが行われました。三気の里も焼き鳥やジュース、作業製品の販売をしました。当日はとても天気が良い。沢山の人が来場されて、焼き鳥やジュースは飛ぶように売れていきました。販売にあたっていたスタッフはもうてんでこ舞い。そんな時に強力助っ人が登場！「なーんね！焼き鳥は売れよるけど3班の枝豆はいっちょよん売れてないたい。あたしが売ればこんなのすぐ売り切れになるけん。」とあそび隊で福祉まつりに来ていた3班所属のFさん。

3班で作っている収穫したばかりの枝豆や、4班のハガキ、通所のキャンドルなどの作業製品の売れ行きがイマイチなのを見て「いらつしゃいませー！枝豆はいかがですかー！ハガキもありますよー！」と大きな声で呼びかけを始め、気がつけばほとんど完売状態。最後は「11月の開園記念祭宜しく願いしまーす。」とピラ配りまでしてくれました。「ほーらね、言ったでしょ。」

あたしが来たならこんなもんよ。」と自慢顔のFさん。本当にお世話になりました。ぜひ来年も宜しくお願いしますね。

最後になりましたが、当日来店してくださった方、購入をしてくださった方、ありがとうございました。

藪下



【運動会】

1班・4班・通所・グループ
ホームは赤組。

2班・3班は白組。

今年の運動会は初の紅白戦でした。そして、みんなで最後まで自分のペースと力で頑張るという目標を掲げました。

徒競争は短い距離ですが、一人一人がゴールを目指して走り抜きました。大玉転がしは自分一人の力でボールを転がしました。ボールを蹴ってゴールする技巧走は少し難しく、何度も挑戦しました。沢山の家族の方にも参加してもらいました。利用

者対抗リレーは自分の走るペースでゴールを目指しました。スタッフ対抗リレーではスタッフが本気で競い合いました。恒例になったスタッフの出し物。今年「たらこ♪たらこ♪たらこ」のダンスで流行を先どりしました。競技に勝敗をつけることでより張り合いができました。得点は白組120点、赤組110点と10点差で白組が優勝しました。皆で一つの競技を競い合う楽しさを感じました。そして、競技ごとに沢山の声援が聞こえてきました。日頃見せない勝利の笑顔、真剣な眼差しを沢山見ることができました。計画時はどうなるか不安でしたが、来年は応援団を結成して、また、紅白戦をしたいと考えています。

栗野



よーい、ドン！
みんな、頑張れ！

平成 18 年 11 月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
🗓️	俊二さん、有働さん、 米田さん、魚谷さん お誕生日おめでとう！！	藤本さん	1	2 開園祭ジャスコピラ配り	3 ☆文化の日	4 俊二さん(40)	
5	6	7	8	9 有働さん(65) 開園祭ジャスコピラ配り	10	11 ☆開園祭☆	
12 藤本さん(39) ・あそび隊	13	14 岡田 Dr.来診	15 スタッフ勉強会	16 誕生会 3班レク	17	18	
19	20	21	22 たんぼぼ編集	23 ☆勤労感謝の日	24	25 療育会議 帰宅バス	
26 かくたつ 研修	27	28 かくたつ 研修	29 米田さん(31) 4班レク	30 魚谷さん(38)			

【実習・ボランティア】

現在、九州看護福祉大学より1名、熊本学園大学より1名の研修生が来られています。間をあげずに活水女子大学より1名の方の研修も始まります。日々緊張の連続だと思えますが、最終日「今から研修生が帰られます」と放送を入れると、たくさん利用の方が玄関まで見送りに来てくれます。それだけ研修中、利用者の方に一生懸命に接していたのだなあ、と感じます。

12月にはもちつき大会が行われます。三気の里のもちつきは、「きね」と「うす」を用いて行ないます。と、いうことは。。。そうです！もちをついてくれる人が必要になってきます。かまどでもち米を蒸すために、火おこしをしてくれる人が必要になってきます。つきあがったもちを丸めてくれる人が必要になってきます。まとめて言うのと、たくさんの方のボランティアが必要なのです。ぜひ御協力をお願いします。

倉岡

後援会

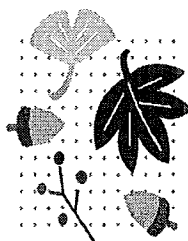
ありがとうございます
ございました



今村 太様
荒牧 貴子様
高下 誠様
竹村 雄蔵様
中野 靖士様
岡崎 範子様
牛島 敏章様
榎木 妙子様
（術）医療ブレーン 藤川 和章様
上村 雅一様
菊地 忠幸様
高下 剛志様
高下 藤夫様
野村 功成様
松枝 洋二様
高森 秀之様
坂本 哲志様

寄付ありがとうございます

榎木 妙子様



ボランティア

ありがとうございます

ピアノ演奏 井川マリ子様
ブラッシング 前淵 隆子様
運動会ボランティア
塩塚麻衣子様 村本 佳奈様
野田 芙美様 上村 啓祐様
安武 春菜様 岩下 恭子様